

平成24年度共同研究の概要（成果報告書抜粋）

研究種目： 研究集会

研究代表者： 福井 希一（大阪大学工学研究科・教授）

研究分担者： 土本 卓（大阪大学工学研究科・准教授）、湯浅 彰太（大阪大学工学研究科・大学院生）、辻 渉（鳥取大学農学部・助教）、留森 寿士（鳥取大学乾燥地研究センター・プロジェクト研究員）、万代 文子（大阪大学工学研究科・大学院生）、安藤 孝之（鳥取大学乾燥地研究センター・准教授）、酒井 啓江（大阪大学工学研究科・助教）、笹井 知博（大阪大学工学研究科・大学院生）、辻本 壽（鳥取大学乾燥地研究センター・教授）

研究題目（和文）：

ジャトロファ研究会

研究概要（和文）：

平成25年3月9日および翌3月10日に、千里ライフサイエンスセンター（大阪府豊中市）にて6th International Symposium “Green Biotechnology for Global Sustainability”を開催した。バイオ燃料作物ジャトロファに関する情報交換と議論を主な目的とする国際シンポジウムである。今回は、シンガポールの Temasek Lifescience Laboratory (TLL) から Qu Jing 博士、エジプトの Minufiya University から Adel Hegazy 教授を招いて基調講演をしていただいた。Qu 博士は9日に TLL におけるウイルス耐性や高油分含量など新機能を持った形質転換ジャトロファ開発の最新の研究内容について、Adel 教授は10日にエジプトにおける有望な油糧作物ホホバの紹介と組織培養による増殖などの研究内容について、それぞれ講演した。また、国内からも16演題が口頭発表され、活発な議論が行われた。そのうち、研究分担者からの口頭発表は9演題であった（「研究成果」の項を参照）。ジャトロファの栽培や分子生物学、代謝産物などに関する講演のほか、菌根菌、植物のサイズ制御、寄生植物、トリテルペノイド生合成など、関連する話題の講演が行われた。参加者は全体で43名であり、国内からは鳥取大学と大阪大学のほか、帝京科学技術大学、大阪府立大学、理化学研究所、名古屋大学、日本開発政策研究所、国際農林水産業研究センター、近畿大学、奈良先端科学技術大学院大学、農業生物資源研究所、などからの参加であった。